

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第5巻第3号

(通巻第41号)

2007年7月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

## 【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、  
そして地域の人々のために  
信頼される医療を目指します



## ふたたびの「愛媛労災病院」

事務局長 藤枝 幹二

このたび、平成19年4月に赴任してまいりました。以前にも(平成6年度～平成7年度)2年間勤めておりましたので、2度目の勤務となりました。12年ぶりの新居浜駅に降り立つと、もやりながらも石鎚山脈の山並みが、圧倒するように眼前に迫り、相変わらず水かさの少ない国領川に架かる新高橋付近までくると、黒色の「愛媛労災病院」の文字が目飛びこみ、病院の全容が見えてまいります。橋を渡る途中、左手には瀬戸内海が覗けるなど、以前と比べて何ら変わらない懐かしい風景でした。

しかしながら、この間、当院を取り巻く社会環境、特に医療情勢につきましては、医療制度改革、診療報酬の改定等、めまぐるしく変化し厳しいものがあります。

当院は、平成16年4月に経営形態が、特殊法人労働福祉事業団より、独立行政法人労働者健康福祉機構に移行しました。今後は、医療の質と安全の向上を図るとともに、公的医療機関といえども経営基盤の確立も求められています。

また、当病院としての理念を掲げ、地域の人々から信頼される医療を目指すこととしています。したがって、これらのことに対応し実践すべく、患者さまの視点に立った良質な医療の提供に努めているところです。

地域の病院、診療所等医療機関との連携を図ることを目的として、地域医療連携室を設置しました。さらに、当院のみならず、地域医療機関からの画像診断検査依頼にも充分対応できるよう機器の整備(MRIの更新及び最新の64列MDCTの

導入)及び画像検査予約受入時間の拡充(平日は19:00まで、土曜日は午前中)を図りました。

また、医療機関の第三者評価機関である日本医療機能評価機構による機能評価を受審し、平成17年6月に認定病院(一般病院:認定JC547号)となりました。

いち早く、DPCによる包括的診療報酬制度の導入に取り組み、18年4月より実施病院となりました。

直近では、この7月にオーダリングシステムを導入いたします。この「いしづち」が皆様のお手元に届く頃はスタートしていることでしょうか。スムーズな導入を図るべく、職員一丸となって取り組んでおりますが、開始直後は、患者さまをはじめ皆様にご不便をおかけすることがございましたら、ご理解のほどよろしくお願い致します。

一方、新医師臨床研修制度の影響等により、医師の確保が難しくなったこともあり、小児科が平成18年度より毎週火、金の乳幼児健診のみとなり、眼科診療の縮小等を余儀なくされるなど、対応が困難なこともあります。

建物等の外観は変わらずとも、様々な取り組みをし変革しつつあるこの愛媛労災病院に、私もふたたび加わりました。これまで、そしてこれからも、この歩みを止めることのないように取り組んでまいりたいと思います。

地域の皆様にはご理解・ご協力を、また関係機関の方々のご指導・ご支援をよろしくお願い致します。

## トータルオーダーリングシステム

医事課長 前田 勝治

7月2日から稼動するトータルオーダーリングシステム導入に伴い、院内リハーサルが3回実施されました。

初回は6月9日(土曜日)に行われました。午後1時に大会議室に集合し、リハーサルに関する注意事項等の説明のあと各自の配役(医師、看護師、模擬患者、医事課職員)へ分かれ、リハーサル開始となりました。模擬患者はシナリオシートに基づき新患、予約、



予約外患者になりきり、新患役は医事課1番窓口で受付してもらい、再診等の患者役は診察券を用いて再来自動受付機で受付を行い診療科へ行く、という実際の患者導線をたどります。

オーダーリング導入に伴い患者導線で大きく変わる点は、全ての患者様(新患、急患を除く)が再来自動受付機を通るという点です。7月2日のオーダーリング稼動開始日には、予約している患者様が従来どおり来院後、受付機を通らず診療科へ行ってしまうような案内をしなければなりません。掲示等で案内はしていますが、認識されるまでの間はフォローが必要となってくると思われれます。事前に行われた操作研修とは違い、診療科で診察を行いながらのオーダ入力に慣れるまでは大変なようです。計3回のリハーサルでは各部署から多数参加があり、多くの模擬患者の事例を行うことができました。またリハーサルの結果、解決しなければならない問題点も明らかになり、オーダーリング稼動開始までに解決しなくてはなりません。7月のオーダーリング稼動開始と、そして今後の運用が順調に行われるよう皆様のご協力よろしくお願いたします。

## 看護週間記念行事～院外活動～に参加して

荒井 恵子

「看護の日」制定から17年目を迎え、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとして、今年度も入院患者様へのメッセージカード配布や、地域の方々の参加を頂いたふれあい看護体験、フジグラン新居浜店での健康チェック・健康相談等の看護週間行事が行われました。

院外活動であるフジグランでのこのイベントも今年で5年目を迎え、「働く人々と地域の人々の健康づくり～もうお済ですか、あなたの健康チェック～」というテーマのもと、各種測定や各職種による健康相談が行なわれました。

昨今、メタボリックシンドローム等の恐ろしさが話題となり、健康に対する意識が更に向上しており、普段測定できない血管年齢や骨密度測定後では、測定結果に一喜一憂している姿があり、長蛇の列となりました。そんな中、事務局からの一口の「キャンディー」が騒然とした場のホットした和みとなりました。

また健康相談でも、メタボリックに関連した高脂血症や高血圧、糖尿病に対する栄養相談をはじめ、医師、理学療法士等への相談もたくさんあり、参加者は、124名と大盛況でした。

ボランティアスタッフの中には、列に並ぶ女性の中に混じって、「しみ」の話題とともに形成外科の紹介をし、病院のアピール等も行ないました。参加者からは、「今度はいつあるの?」などと、期待の声も上がっており、健康に対する市民の方々の意識の高さが伺えました。

とても疲れた一日ではありましたが大変充実しており、院外でのこのような活動を通し、より地域に密着した病院になれるよう今後も皆で協力していきたいと思いました。

最後に参加して頂いたボランティアの方々の協力を深く感謝いたします。



## 南 5 病棟

藤田寿美代

南 5 病棟は、心臓血管外科 12 床、循環器科 30 床、麻酔科 2 床の計 44 床で稼動しています。看護師は 17 名で、温かい人間味のある土居師長の下でチーム力を結集し、患者様によりよい看護サービスが提供できるよう日々努力を重ねています。近年の社会情勢では環境汚染が進み、生活環境が欧米化したことなどから、生命危機に直結した疾患をもつ患者が増えています。当病棟でも、癌、呼吸器、心臓疾患と、どの疾患も生命を脅かす恐い病で、患者さんは不安を抱えながら治療を受けているのが現状です。治療を担当する医師の責任の重さは言うまでもありませんが、それを支える者として、いかにあるべきか、個々の看護師は現状を認識し自己研鑽に努めています。

患者様が求めているものは何か、患者様の「心の声」を「観て、聴いて、感じて」チーム員全員で「看護の力」が発揮できるよう、持ちまへの笑顔を決やらず、パワー全開で頑張っています。



## 臨床研修医から

高橋 慶子

平成 12 年 12 月に医師法が改正され、それまで努力義務とされていた医師の卒後臨床研修が、平成 16 年 4 月から必修化されました。臨床研修医とはどんな位置付けなのか、院内にご存知ない方もたくさんいらっしゃると思います。今回は研修医について少し紹介させていただきます。

医学部卒業後、まず医師国家試験に合格し、その後研修医となります。研修医 1 年目は内科系 6 カ月、外科系 3 カ月、麻酔・救急 3 カ月をローテーションします。2 年目は産婦人科、小児科、精神科、地域医療（保健所など）をまわり、残った数カ月で自分の興味のある科を選択し、研修します。必修の疾患や症候が数十個あり、この 2 年の間にそれらのレポートを書かなければなりません。2 年間の研修が終わると、自分の専門科を決め、後期臨床研修に入ります。ちなみに優柔不断な私は何をしても楽しく、進路が全く決まりません（汗）。

## 私の仕事

契約係 高野祥吾

この四月に愛媛労災病院に赴任してきました高野です。まだ社会人となって日が浅いので、毎日が初めてのことの連続で戸惑いもありますが、早く慣れて仕事をスムーズにこなせるようにしていきたいなと思っている今日この頃です。

さて、本題の「私の仕事」ですが、私は会計課で契約係を担当しています。契約係では一年間の収支予算や物品等の契約を行っています。総じて患者さんや職員との接点は多くなく、取引先などの対外的な業務が多いといえます。

ここで、私が思う契約係の醍醐味を紹介しましょう。契約係は、契約内容が適正であるか、どれだけ支出を抑えられるかという視点を持って薬品、診療材料や医療機器などの契約をしています。少額な品目であれ 1 円でも支出を抑えれば、病院全体の収支に影響を与えることができます。一病院としての経営を直に肌で感じるができます。

また、決議書の作成を行うことで、医療機器の修理や賃借料といった高額な支出からダイソーなどで買った消耗品の少額な支出まで、ありとあらゆる病院のお金の流れ（支出）が一目瞭然に把握することができます。

今は契約及び支出等の決議書作成業務が一日の仕事の中で大きなウェイトを占めています。日に日にたまる、納品書、見積書、請求書を整理して、決議書を作成し、印刷し、自分のハンコを押して、会計係に渡す、その会計係に渡す瞬間が最近では一番の楽しみになっています（笑）。

短い期間でのローテーションなので、慣れてきた頃に（人間関係も含めて）次の科へ異動となり、科が替わる度に名残惜しい気持ちでいっぱいになります。ただ、どの病棟、外来に行ってもみなさんが優しくしてくださるので、病院中いろいろな所に自分の居場所がある気がして嬉しくもあります。

1 年前は検査や薬のオーダーの仕方や採血の方法はもちろん、カルテの書き方、患者さんとの接し方さえも分からず、この 1 年間先生方をはじめ、本当にいろいろな方々にお世話になりました。何もできないなりに「何かしたい！！」と思っているので、ルート確保や伝票のサインでさえも頼まれると喜んでしまいます。いつでもどこでも「私にできることはないかな」と考えているので、何かあれば小さなことでも声をおかけください。

私は現在 2 年目で産婦人科にいますが、この後は精神科、小児科、地域医療と労災病院外での研修となります。数カ月この病院を離れることとなりますが、冬にはまた戻ってきますので忘れないでくださいね。

## 総務課からのお知らせ

- 新しいスタッフの紹介 -

今年度、4月と5月に以下の方々が新たに愛媛労災病院のスタッフとして加わりました。



内科医師  
高見太郎



内科医師  
松本賢治



循環器科医師  
沢 映良



外科副部長  
藤井雅和



歯科医師  
小林亜由美



心臓血管外科医師  
岡崎嘉一



研修医  
渡邊啓太



研修医  
上辻理恵子



薬剤師  
今田 篤



臨床検査技師  
十河直美



理学療法士  
西岡裕子



北4病棟助産師  
竹内香菜



北5病棟看護師  
武田貴子



北5病棟看護師  
岡野理沙



北6病棟看護師  
西原絵里



南4病棟看護師  
田坂美幸



南5病棟看護師  
近藤なつみ



南6病棟看護師  
大西 茜



南6病棟看護師  
小野紘子



外来看護師  
塩崎奈々



北7病棟看護師  
中村理恵子



外来看護師  
石川和美



事務局長  
藤枝幹二



会計課長  
松本伸二



総務課給与係  
平田千恵



会計課契約係  
高野祥吾



医事課入院係  
近江和明

## 地域医療連携室より

梅雨の時期になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

これから夜も寝苦しくなり、じめじめした気分になりがちですが、そんな憂鬱な気分を吹き飛ばし、気を引き締めたいところです。

挨拶が遅れましたが、4月から前任者の橋本より地域連携業務の引継ぎをいたしました、谷村香織と申します。紹介患者の予約・受付など、地域連携業務は初めてのことばかりで、不慣れなことが多いため、皆様には大変御迷惑をお掛けしております。

特に、電話の応対ではいつも緊張してしまいますが、いち早く業務に慣れ、愛媛労災病院の地域連携室担当として少しでも早く一人前になれるよう精一杯努力してまいりたいと思っております。

さて、今後の地域連携室の活動としましては、9月に地域医療連携勉強会を開催する予定です。講師の先生は、川崎医科大学乳腺甲状腺外科学・園尾博司教授にご依頼する予定となっております。また、11月にも地域医療連携に係わる勉強会として、イブニングセミナーの開催を予定しています。このように、院内外の医療に携わる方々との医療連携を深め、連絡を密に取り合うことができる場を築けていけたらと思っております。

7月からオーダリングも導入され、これからますます忙しくなると思いますが、私も気を引き締めて頑張ろうと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(地域医療連携室 谷村)

## 編集後記

今回よりいしづちの編集に参加させてもらうことになりました。いろいろと教えていただきながら、楽しくやらせていただこうと思っております。よろしくお祈りします。

今、私の周りで「ブリーズ・ブート・キャンプ」が流行っています。皆さんご存知でしょうか？DVDを見ながら、一緒に筋トレをやっていくのです。1日1時間のプログラムはハードなもので、筋肉痛で歩くのもつらい時があります。その甲斐あってなのか、ほんの少しだけ引き締まった気がしています。興味のある方は是非お試しを！

さて、話は変わり、いよいよ当院では7月よりオーダリング稼働となりました。リハーサルで、患者役を行いました。初めは待ち時間等でご迷惑をおかけするのでは…と感じました。事前の準備等、苦労が多々あり、疲れが出てくる頃かもしれません。しかし、全員で力を合わせ、笑顔を忘れず、さらに活気ある病院になるようこれからも頑張っていきたいと思います！(Y.S.)

広報紙編集メンバー：病院長(篠崎文彦)、副院長(友澤尚文)、医局(稲見康司、佐藤晃)、看護部(西村百合枝、高橋美保、泉敦子、山根千春)、総務課(楠本英行、山内正)、医事課(橋本直子、谷村香織)、薬剤部(佐々木優子)、放射線科(正岡憲治)、検査科(阿南孝志)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理部(清水亮)